

福岡県南支部歯科技工士会・衛生士会合同講演会

開催予定日時：2020年2月1日（土） 16:00～18:30

開催場所：えーるピア久留米

緩和ケア ～そのひとらしさを支えるために～

久留米大学病院 緩和ケアチーム

佐野 智美

“緩和ケア”という言葉に、どんなイメージをお持ちでしょうか？

終末期医療だけではない。“診断されたときからの緩和ケア”が、現在厚生労働省が推進している考え方です。

2014年5月に日本緩和医療学会から市民向けの定義が公表されました。

緩和ケアとは、重い病を抱える患者やその家族一人一人の  
身体や心などの様々なつらさをやわらげ、  
より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア

緩和ケアチームの一員として、患者さんからよく耳にするのは

「抗がん剤の治療を受ける前に、お寿司を食べに行ったの」

「退院して最初にしたいことは…行きつけのお店のスパゲッティを食べること！」

「やっと入れ歯を入れて食事ができるようになりました。…美味しい」 の言葉。

終末期のご家族からは

「もう少し食事をたべてもらえると安心なんですけど…」 と。

食べること=命 だけでなく、生きるための楽しみ であることに気付かされます。

口が渇いていたり、痛みがあれば、十分思いを伝えられないこともあります。

口の機能は、患者さん、ご家族の“笑顔”に貢献している と感じる毎日です。

緩和ケアのキーワード 「全人的視点（ひとを1人の生活者として考える）」「寄り添う」「チーム医療・介護」と共に、最近のトピックス「アドバンス・ケア・プランニング（愛称 人生会議）」についてお伝えできれば と考えています。

## 【演題】

平成から令和へ歯科技工のデジタル化

## 【抄録】

Digital Dentistry という用語が歯科界の共通語として認識されるようになって既に数年が経とうとしています。近年の補綴歯科治療におけるデジタル技術の発展は著しく、Digital Dentistry は補綴歯科技術の進展だけではなく、補綴歯科技工臨床のワークフローを根本から変えつつあると考えています。そこで今回デジタル技工を今一度原点に立ち返り、CAD の使い方からデジタルワークスアップ、ワークスアップからのダブルスキャンや CAM 機の説明から、3D プリンターの造形まで一連の流れを紹介していこうと思います。また、まだデジタル技工を導入されていない小規模ラボや、院内技工をされている技工士の会員の皆様にも入門編として是非気軽に参加して頂いて、Digital Dentistry の今に触れて欲しいと思っています。

## 【講師】

中島 博之 先生